View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kwansei Gakuin University Repository

秋季宗教運動・大学キリスト教週間への招き
―悩んで疲れていませんか―

新　谷　陽　介

10年前、私はハタチの大学生だった。若さを謳歌しつつも、色々な悩みを持っていた。誠実で堅実なクリスチャンとしての生き方を追求するがくじけてばかり。人に対する親切心や寛容さの一欠けらも持ち合わせていない。強がって自分を立派に見せようとするが、ホントは何もできない弱くてみじめな者であることを思い知ったのもその頃である。そんな時、聖書のパウロの言葉に出会った。

「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」（ガラテヤの信徒への手紙 2:19-20）

善いことをやりたくても、やることはその反対ばかり。自分から出るものは、ねたみやそねみ、自己憐憫や高慢。それをがんばって封じ込めてもどこからかむくむくと湧き出てくる。結局自分の力ではどうにもならないと悟ったとき、こんなつまらない自分の内でキリストが生きてくださっているという聖書の言葉に、感動と感謝の涙が溢れてやまなかった。キリストは、嫌で嫌でたまらなかった醜い私を、2000年前のあの十字架刑で共に葬ってくださり、さらに私を新しくしてくださっていたのだ（Ⅱコリ5:17）。それまで重要だと思って自分の手で力いっぱい握り締めていたものが、実はなんてことない、それも主が解決してくださることだと考えられるようになった。

あなたも何らかの悩みを持っているだろう。それは親、兄弟、友人、恋人といった人間関係であったり、勉学であったりするだろう。社会人になれば仕事上での悩みが尽きることはない。けれども主はそこに希望の光を当ててくださる。それは自分が考えるような解決方法ではないかもしれない。自我を砕かれるという痛みを経験するかもしれない。時間がかかるかもしれない。しかし、解決は必ず与えられる。あなたの内から癒しと恵みの河が流れ出る、と主は語ってくださっている（ヨハ7:38）。主は「私のところに来て休みなさい」（マタ11:28）とあなたを優しく抱きしめるだろう。

この大学キリスト教週間で、クリスチャンであってもそうでなくても、私も含めてみなさんの多くが主を発見・再発見し、癒しを経験するきっかけとなることを祈っています。

総務部（学部等事務統合プロジェクト担当）